

令和5年3月3日

令和4年度 第3回 宝塚市図書館協議会会議録

日 時：令和5年3月3日(金) 13時25分～15時10分

場 所：中央図書館研修室

出席者：委員 上野委員、今北委員、小谷委員、大城委員、林委員、藤井委員、豊蔵委員
員（欠席：神崎委員、黒住委員）

市 永尾中央図書館館長、西川中央図書館係長、近藤中央図書館係長、花村中央図書館係長、時任中央図書館職員

上木西図書館長、藤野西図書館係長、藏野西図書館係長

【会議内容】

(永尾館長)

令和4年度第3回図書館協議会を開会します。この1年間図書館協議会の運営にご協力いただきありがとうございました。コロナ禍に翻弄された3年間でしたが、この経験を次の世代に引き継ぎながら日常を取り戻し、皆さまに愛される図書館にしていきたいと思えます。今後とも宝塚市立図書館の活動にご協力くださいますようお願い申し上げます。

それでは、事務局から、本日の協議会の委員の出席状況について、報告します。

(西川係長)

本日の協議会は、9人中7人が出席いただいております。宝塚市立図書館協議会規則第4条第2項に規定しています定足数につきましては、過半数を超えていますので、協議会が成立していますことを報告します。

(永尾館長)

それでは、議事に入らせていただきます。ここからは、上野委員長に議長をお願いいたします。

(上野委員長)

それでは、議長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

今日は傍聴の方がいらっしゃらないようですので、早速、議事に入らせていただきます。

「議事(1) 第2回宝塚市立図書館協議会における委員の意見について」を議題とします。前回のご意見、ご提案について、事務局で整理していただきました。

(永尾館長)

昨年12月に、市内の図書館を視察していただき、様々なご意見をいただきました。それぞれのご意見に対し、図書館からご説明を申し上げます。

(近藤係長)

資料1-1「1中央、西図書館には、雑誌コーナーがあるが、分室にはない、設置してはどうか」というご意見でした。

小浜・安倉分室、中山台分室には、小さいながら雑誌コーナーがあり、椅子も置いています。ただし、山本南分室には、閲覧自体のスペースがないため、雑誌コーナーもありません。各分室とも、予約で中央・西図書館にある雑誌を取り寄せて、対応しています。資

料には、分室ごとの所蔵雑誌を掲載しています。小浜・安倉分室は、今のところ3誌ですが、「こどものとも」などの利用も多いことから、今後、児童の雑誌を置くことも検討します。山本南分室に関しては、コロナ前には、中央図書館から取り寄せた雑誌を暫く置いて、貸出もしていましたが、長時間の滞在ができないということで、現在は、中止しています。今後、再開することを検討します。

次に、資料1-2、「2図書館の開館時間を20時まで延長してほしい」というご意見をいただいています。開館時間の延長につきましては、費用対効果の検証のため、平成16年から、年度ごとに様々に試行し、最終的には平成25年に金曜日を19時まで、平成26年に7月、8月の土曜日の開館時間を19時までとし、今に至っています。

試行の結果、18時から19時の1時間は利用が少なく、19時以降の利用はさらに少なくなると予想されました。夏期につきましては、土曜日もある一定の利用があり、夏休み期間ということから、7月、8月を7時まで延長しています。試行結果から費用対効果を鑑み、現在のところ20時までの開館を実施する予定はありません。ただし、19時以降については、中央図書館では夜間の受取りロッカーを、西図書館では、20時45分まで西公民館で予約図書受取りサービスを実施しています。また、開館時間につきましては、朝の延長を求める声もあり、平成30年に、10時からを9時30分からに変更しています。

次に、資料1-3、「3悩みや希望に応じた本の相談ができるコンシェルジュのような存在について」ですが、「悩みや希望に応じた本の相談が気軽にできるコンシェルジュのような存在があれば良いと思う。レファレンスが分からない」というご意見については、カウンターで色々な調べものや問い合わせにお答えしています。ご指摘のように「レファレンス」という言葉は一般には難しいもので、親しみやすい呼び名を検討します。

「4小浜・安倉分室の椅子・机について」ですが、「喫茶店のようだ」というご意見をいただいています。

小浜・安倉分室には、市民にとってなじみ深い旧宝塚ホテルの椅子を配置することで、過去の記憶を蘇らせ、分室をより親しみやすい場所としています。低いテーブルは書き物には不向きですが、じっくり本を読んだり、読み聞かせをしたりして、活用されています。

「5山本南分室の拡張について」は、図書館協議会としての意見をまとめたいということですので、議事の(2)で協議をお願いします。

(上野委員長)

ありがとうございました。雑誌コーナー、開館時間、コンシェルジュ、椅子と机について、前回の協議会で出た意見に対して、丁寧に答えていただきました。今の説明に対して、ご意見があればどうぞ。

(藤井委員)

分室の雑誌の取り寄せですが、最新号は禁止ですか。

(近藤係長)

はい、貸出禁止です。

(藤井委員)

山本南の件ですが、原点に戻って、金曜日に分室が休みなのは何か理由がありますか。

(永尾館長)

職員を雇用するに当たって、週に2日休みを取る必要があり、雇用できる人数が限られ

ていることから、やむを得ず、少し利用が落ちる金曜日を休館に設定しています。

(藤井委員)

次の件の意見書についてですが、意見書を出して、陣取り合戦というか、面積は増える見込みはありますか。時間帯以外に、例えば、BM車を停めて、特集的に本を持ってくる工夫はできるのではないですか。

また、面積はやはり狭い。大阪府下でも高槻市や熊取町の駅前で予約の受取場所がありますが、山本南分室の貸出冊数17万冊の実績はやはり凄い。

(上野委員)

次の意見書についての議題に移ります。「(2) 山本南分室に関する図書館協議会委員の意見について」、事務局より説明をお願いします。

(永尾館長)

山本南分室の狭さについては、改善の必要があるとのことをご意見をいただきました。図書館としても、山本南分室の拡張の必要性は認識していましたが、東公民館との調整や予算など難しい問題があります。このため、上野委員長より、図書館協議会として改善を求める意見書をまとめたいとのことご提案をいただき、資料2のとおり、意見書案としてまとめさせていただきました。参考として、山本南分室の利用状況も付けています。利用状況について、ご説明いたします。

(近藤係長)

資料2-3「山本南分室1日平均貸出冊数推移」をご覧ください。年々、分室の利用が増えています。2014年に土日の開館を12時30分から10時からに変更したため、利用が増えました。さらに、2017年には木曜日の開館時間を12時30分から10時に拡大し、利用が伸びました。これは新規の方が増えたのではないかと思います。ここ数年を参考にすべきなのですが、コロナによる休館などがありますので、2018年度をベースとして中山台分室と比較すると、1.5倍となっています。これだけ利用があるということは、スペース不足が、年々深刻になっているということだと思います。

次に、資料2-4ですが、曜日別時間帯別貸出冊数をまとめました。平日月曜日、火曜日12時30分から18時までですが、月曜日が若干多いのは祝日が入っているためではないかと思います。土日を比較した場合、日曜日が若干多くなっている傾向ですが、東公民館の休館日の影響を考えると同じような利用だと思います。時間帯の分析をしたところ、予約本が各館から山本南分室に届く時間の16時から17時の貸出が2割程度を占めて多くなっています。全体的には、土日とも、朝の利用が多い傾向があります。中央・西図書館、分室とも朝の利用が多く、昼は少なくなり、夕方から貸出が増える傾向は同じと捉えています。

次に、資料2-5ですが、こちらは、どのような本が借りられているかという資料で、「小説」が36%と一番多く、「くらし・工学」も多い。料理、家事の本が含まれるので、山本南分室は親子で来られる方もいて、そういう傾向から多くなっています。次に、資料2-6ですが、児童書では、突出して貸出が多いのが絵本です。山本南分室では絵本を読みながら選ぶことがなかなかできない状況です。このようなことを考えますと、ゆったりとしたスペースが必要ではと考えます。山本南分室は予約本の取り寄せが非常に多く、各

館の貸出に占める割合を調べたのですが、山本南分室は全体の貸出のうち、予約本の受渡しが4割近くを占めています。これは蔵書数が少ないことと利用が多いことで必然的にそうならざるを得ない数字と捉えました。

(上野委員長)

ご説明ありがとうございました。

データを見せていただき、分析もしていただき、意識の高い市民の皆さんに親しまれて支持されている分室だということが改めてよく分かりました。前回の視察の後に、皆さんから、非常に強い気持ちで、山本南分室について何とか広げることができないかという意見を多数頂戴しました。こういった会議の場合、言いつばなしということも多いのですが、何とか前に進める方法はないかと事務局と相談し、今回、意見書を作らせていただきました。今から読み上げます。

(意見書(案)を読み上げ)

この意見書について、何かご意見や修正希望がありましたら、よろしくお願いします。

この内容で、意見書を中央図書館長に提出してよろしいでしょうか。

(豊蔵委員)

山本南分室ですが、別の見方もできると思います。山本南分室は、狭くても、これだけ多くの貸出があるというメリットというか、良いところがあって、これだけ使われているのではないかと思います。予約が40%でしたか、そういう使われ方をされる性質の分室かと思えます。これが今のニーズに合った分室のあり方かもしれないかなと、山本南分室を広くすること自体が目的になるべきかなと、大本な話になって、腰を折る話になってすみません。

(藤井委員)

色んな考え方があると思うのですが、山本南分室はコスト的には十分見合っています。それは評価できて、否定はしませんが、しかし、それにプラスして何か案があるのか、より使いやすくなるのかということを知りたい。協議会としてではなく、館としてどう考えているのか。一案があるのか。我々が協議会として応援できることは、東公民館に空きスペース、使っていない所があるのではないかと考えたので、委員長がまとめられた意見書になっていると思うのです。意見書が提出されたときに図書館としてどうなのかということを知りたい。

(豊蔵委員)

私は、そういうメリットがあるのなら、受取り場所を増やすことがいいような気がします。

(上野委員長)

ほかに何かご意見はありますか。

(永尾館長)

今のご意見ですが、神戸市では、予約本の受取りだけのスペースを市内にたくさん設けていまして、分室ではなく窓口を作る発想があるのではないかと思います。山本南分室の拡張については、働いている職員にとっても非常に過酷な場所ということもありますので、意見書の形で後押ししていただいて何とか実現できればと思っています。豊蔵委員のご意見も、将来の選択肢として考えていかなければと思います。

(藤井委員)

この意見書が提出されて、次のビジョン、こう考えているとお聞かせいただかないと。現時点の考えでけっこうですので説明いただきたい。大阪府下ですが、高槻市、枚方市、堺市では、駅前に予約本の受取る場所があります。山本南分室ほどの貸出実績のある所はない。費用対効果が見合わない訳です。山本南分室は本が置いてあることで、違うのかなと感じます。

(永尾館長)

前回の協議会で、このようなご意見があったことについて、社会教育部内で話をしました。公民館を所管しているのは社会教育課ですが、公民館は現在、指定管理になっており、指定管理者と、社会教育課、図書館を交えて話をしていくことまでは協議できています。コロナ禍の中で、喫茶コーナーがなくなって空きスペースが生じているので、話をしていく余地はあるのですが、宝塚市も財政が非常に厳しいので、(拡張に係る) 予算について、乗り越えられるかどうかは、今のところ分からない状況です。

(上野委員長)

ありがとうございました。一步を踏み出すこと、大きな山を少しでも動かす意味で、この意見書を提出したいと私は思いました。これからの展開については、続けてご報告いただきたい。まずは、前回の会議で、非常に強い意見がたくさん出ましたので、狭いスペースを何とかしてほしいという協議会の意見書として提出したいと思います。よろしいでしょうか。

それでは、(案) を消して、意見書を中央図書館長に提出します。

では、次の議事に移り、「(3) 市民アンケートについて」事務局より説明をお願いします。

(花村係長)

前回の図書館協議会でも触れさせていただきましたが、「宝塚市立図書館の利用に関するアンケート踏査」についてご説明します。郵送で2, 005通発送して、戻ってきた回答数が463、回答率は23%で、あまり高くはありませんが、集計しました。

今回の回答は、中央図書館、西図書館を合わせた回答が7割を占めて、近くに住んでいる方から回答いただきました。「これからの図書館がどうなればいいのか」、「図書館を利用するのはなぜですか」などの記述の速報値を報告します。お読みいただき、ご意見があればお願いします。

(永尾館長)

図書館を利用していない方に図書館に来てもらうためにはどうしたらいいか、図書館を利用している方は図書館のどんな点を改善してほしいと考えているかということについて、アンケートを分析して、今後の図書館運営に反映したいと考えています。速報値で、まとめたばかりですので、分析までは至っていません。

(藤井委員)

問3の数値ですが、問9に、図書館を「利用しなかった」数値が260とあります。この二つの数値をクロスさせたものはありますか。

(永尾館長)

いまのところ、そこまではできていません。

(藤井委員)

どの図書館の近くの方が利用していないかを分かれば、手を打てるのかなと思いました。

(上野委員長)

年度末のお忙しい中、速報値という形でまとめていただきました。藤井委員のご質問に対しては、事務局にお預けしたいと思います。次回にお答えいただければと思います。

ほかにいかがでしょうか。

(豊蔵委員)

問1で年齢層が出ていますが、60代以上が半分以上を占めていますね。

(藤野係長)

無作為抽出の段階では、均等に抽出していますが、答えていただいた方は、高齢の方が多かったという結果です。

(永尾館長)

この市民アンケートは無作為抽出なのですが、来館者アンケート(満足度調査)も今年度中に行う予定でして、そこでは違う結果が出てくると思います。そのアンケート結果についても、今後図書館協議会で報告します。

(上野委員長)

では、次に、「(4) 令和4年度事業について」事務局からご説明をお願いします。

(近藤係長)

聖光文庫の展示について、口頭で説明いたします。7月の夏休みから8月までは、「動物を探そう」という子ども向けの展示を毎年行っています。中央図書館で所蔵している鳥獣人物戯画の複製を展示し、その中に出てくる動物を探すという企画展です。

また、11月19日から1月9日までは、聖光文庫の資料を使った「千年の四季～日本の名画、絵巻でたどる～」と題し、四季の風景に分けて、源氏物語、雪州、琳派など皆さんがよく目に触れる作品を通して、図書館、聖光文庫に興味を持っていただくように思い展示を行いました。

(永尾館長)

続きまして、資料5の好奇心クラブについてご説明します。8月以降について、ご説明いたします。「認知症キッズサポーター養成講座」については、コロナの感染者が爆発的に増えたため、1月に延期したものの、集客ができず中止となりました。9月には、「毎日がアルツハイマー」の上映会を行い、同時に認知症チェックシートの使い方などを市高齢福祉課の職員に説明してもらいました。また、「認知症サポーターレベルアップ講座」なども行っています。認知症の取組は継続して行っていることで、「次は何があるのか」、「もう一度来たい」など認知症に対する関心が高いことが分かりました。「家族の介護体験談」は、認知症の介護を体験した方のお話をお聴きしました。また、好奇心を刺激するというので、昔の映画スターについてのお話「思い出のスタア大図鑑」、スマホを使って図書館の本を予約できるところまでを目標にして、「シニアのためのスマホ講座」を開催しました。

次に、「市民のための現代文学講座」を毎年行い今年で10回目ですが、講師の先生もご高齢ということで、今回で最後となりました。内容は、3人の作家について3回に亘って開催しました。非常に人気の高い講座でしたので、来年度は読書会のような形で開催で

きないか講師の先生と相談しています。

(藤野係長)

では、資料7-1「(第4回)ことばの祭典・ビブリオバトル2022」について、ご説明いたします。昨年11月26日に、西公民館で開催しました。学校教育課と図書館との共催で、午前中は「俳句バトル」を開催し、俳人の坪内稔典さんが進行され、午後に、図書館が「ビブリオバトル」を開催しています。今回は、小学生が9人、中学生2人が参加しました。

(ビブリオバトルのルールですが、)お薦めしたい本について、小学生は3分、中学生は5分間で、面白さや是非読んでくださいと魅力をアピールするもので、最後に見ている人も含めて会場にいる人が一番読みたくなった本を投票し、得票が一番多かった本がチャンプ本となります。今日お越しの今北委員に司会をしていただきました。保護者の方もたくさん見に来ていただきまして、「運動では活躍できないけれど、ビブリオバトルで活躍できる場ができて嬉しい」などの感想をいただいたりしました。トライやるウィークに来た中学生に、いきなりですが、「ミニビブリオバトルをするよ」と言ったところ、意外と今読んでいる本や以前に読んだ本を思い出して本を紹介してくれました。

(藏野係長)

続きまして、資料8-1をご覧ください。西図書館で実施しました子ども向けの講演会で、富安陽子さんをお招きして、「夢か^{うつつ}現か妖怪か。～本は不思議への扉」という講演会を行いました。次のページにチラシを載せています。本年1月15日に西公民館ホールで行い、子ども向け講演会ですが。申込者は99人で、うち、子どもは29人でした。大人の方の参加が多かったので先生も考えられて、子どもには少し難しいところもありましたが、お話が大変上手で、引き込まれる内容でした。実際に、ご自身の作品の読み聞かせもされ、感動的なシーンもあり、非常に良い講演会であったと思っています。最後の質疑では、「本は何度書いても飽きない」、「夢に見たことを作品にしているなど」、子どもたちからの質問に対する答えが大変楽しいものでした。

(上木館長)

続きまして、「図書館利用券とマイナンバーカードとの連携事業について」ご説明いたします。資料9をご覧ください。この事業につきましては、西図書館で予算化しましたので、私から説明します。事業の概要・目的・成果ですが、マイナンバーカード1枚で複数の図書館での図書の貸借を実現することで、相互利用の一層の促進を図るとともに、マイナンバーカードの取得促進に寄与することを目的とします。

現在、阪神7市1町の図書館では、相互利用を行っていますが、マイナンバーカードとの連携を行っている市町では、一度手続きをしていただければ、利用券を持参しなくても、マイナンバーカードだけで本を借りることができます。それによりまして、利便性の向上を図られることとなります。稼働日については、既存の図書館システムの改修をし、昨年10月3日から手続きを開始しています。次に、兵庫県下、阪神間の状況ですが、令和4年10月1日現在、県下41市町中16市町で導入しています。この内、阪神間につきましては、4市、西宮市、三田市、芦屋市、宝塚市で導入しています。

手続きは、ご本人が利用券とマイナンバーカードを図書館、各分室に持参し、窓口で行います。一度手続きをしていただきますと、次回以降はマイナンバーカードだけでも本を

借りることができます。

件数につきましては、本年2月末現在で80件と少ない状況です。広報たからづか、図書館ホームページ、図書館だより、エフエム宝塚などで周知していますが、さらに周知に努めたいと思っています。

(永尾館長)

次に、中央図書館にある市史資料室の事業について説明いたします。資料10-1をご覧ください。8月以降の説明です。11月に旧松本邸の公開を実施しました。天気に恵まれ、669人の参加がありました。感想を載せていますが、中に入ってみると、その美しさや建築上の面白さが分かって、皆さん、満足されています。

次のページですが、「宝塚の歴史を知ろう！『たからづかデジタルミュージアム』活用講座」です。昨年の2月から、デジタルミュージアムを始めましたが、まず、宝塚市の歴史に興味を持ってもらおうということで、この活用講座を開催しています。

雲雀丘地域については、大正時代から開発された住宅地として、日本で初めての住宅ローンの話なども含めて話をさせていただきました。3月12日には、「デジタルミュージアムで学ぶ、登録有形文化財「旧松本邸」を予定しています。デジタルミュージアム内で、360度パノラマで自由に操作しながら内部を見学できるのですが、1級建築士の中川先生に解説していただきながら、見ていただくという講座になります。次に、聖光文庫で行っている展示ですが、先ほど、近藤から説明がありましたように、聖光文庫の資料を展示するものと、市史資料室の資料を展示するものと、両方行っています。「鉄道と文化のターミナル 宝塚」は、阪急電車、元阪鶴鉄道、JR宝塚線を中心に発展してきた宝塚について、資料を展示しました。また、現在、行っている展示ですが、「寄託・寄贈資料展」は、市民の方から寄託・寄贈された資料を展示しています。今は無き宝塚ファミリーランドの資料や、雲雀丘にあった精常園、温泉旅館、一橋公から拝領した刀などを展示しています。映画館関係者が残しているポスターなども寄贈いただいたので、そちらも展示しています。

以上で、令和4年度事業についての説明を終わります。

(上野委員長)

説明が終わりました。ご質問、ご意見があればお願いします。

(林委員)

ビブリオバトルについてですが、順位を決めるときは、来場している方の挙手か何かで決めるのでしょうか。

(藤野係長)

紹介された本の名前に一つだけ丸を付けてもらって、投票用紙を回収・集計しています。

(林委員)

子どもたちだけで（決めていますか）。身内とか（が多いと有利ですか）

(藤野係長)

アンケートにも、家族がたくさん見に来ている人が有利ではないかとの意見がありました。止むを得ないのではないかと考えています。

(上野委員長)

ビブリオとはフランス語ですか、ラテン語ですか。

(藤野係長)

おそらく、ラテン語ではないかと思います。また、ビブリオバトルは、日本で生まれたもので、京都大学の学生が考えられて、ネーミングも自分たちで考えて、ビブリオと英語のバトルを組み合わせた造語です。商標のような形になっていまして、この名称を使う場合は、必ずルールを守ってくださいとホームページに記載されていました。

(今北委員)

図書館利用券の件ですが、よく山本南分室を利用するのですが、利用券を忘れたときでも、職員の方が、生年月日と名前を確認できれば本を借りられますと言っていたら、親切に対応いただいた。お礼を申し上げます。ありがとうございます。

(藤野係長)

「あんな絵本 こんな絵本2022」についてご説明します。前年の2021年に出版された絵本の中で紹介したいと考える絵本を、図書館職員とボランティアグループの方1名とで選定するというものですが、多くの図書館では、本の紹介というと、定番の本を紹介することが多いのですが、新しく評価の定まっていない本を紹介するという、少しチャレンジした取組です。表紙のデザインも職員が行い、きれいなものになっているかと思えます。

(上野委員長)

装丁もかわいらしく、定番の「ぐりとぐら」が載っていないのが新鮮でした。

それでは、次の議事「(5) 令和5年度事業について」事務局からご説明をお願いします。

(西川係長)

資料11「令和5年度 図書館管理運営事業」について、ご説明します。

まず、中央図書館から説明します。総額87,274,000円ですが、別途、建物保全として、5,884,000円で、建物の維持補修、照明のLEDへの交換費用で660,000円ですが、10年間のリース契約を結ぶ予定で、10月からの半年分を計上しています。10年間では、13,200,000円となります。施設改修工事費は空調機器の改修工事で、令和5～7年度の3か年で行う工事の前払い金相当額です。こちらは建物の老朽化の改修に伴う建物保全に係る経費で、上段の87,274,000円は通常の図書館運営に係る経費です。令和4年度と比較しましても、大きく変わっていません。大きな変更点としては、光熱水費がウクライナ紛争の影響で昨年度と比較し約435万円多く計上しています。令和4年度も、電気代、ガス代が値上がりし、補正予算で計上しましたが、来年度は年度当初から増額して計上しています。図書費については、令和4年度はSDGS関連で57万円多くなりましたが、来年度は18,000,000円で例年通りの額となっています。光熱水費が多くなった分を施設修繕料で調整し、約100万円減額しています。空調機器のガスヒューポンの部分を新しく更新しましたので、修繕が必要ないであろうということで、この部分を減額し、全体で令和4年度と同規模とし、光熱水費を何とか確保しました。紛争が終わって平和な時代になれば、この部分が新しい事業に使えるのではないかと考えています。

(上木館長)

西図書館の予算について説明します。資料12をご覧ください。

市の予算計上の仕方として、費目、項目ごとに計上する形となっていますので、費目ごとに説明いたします。

まず、報償費ですが、先ほども、今年の1月に実施した富安陽子さんの講演会の報告が

ありましたが、西図書館では、子どもの読書活動推進計画関連事業として、毎年、小学生から高校生を対象とした講演会を開催しています。令和4年度で3回目となり、来年度も予定しています。また、ストーリーテリング養成講座を開催しています。ストーリーテリングとは、語り手がお話を覚えて本を通さずに、直接、聞き手に語りかけるもので、5月から10月にかけて連続で講座を開催しています。

次に、需用費ですが、消耗品費があり、資料費として、雑誌、新聞、年鑑・白書、上映会用DVDなどで2,676,000円を計上しています。その他の消耗品として、1,538,000円、合計で4,214,000円を予定しています。次に、光熱水費ですが、昨今の電気料金の値上げを見込みまして、昨年度と比べ増額しています。次に、備品購入費として、庁用器具があります。これは、調度品、書架や椅子などのことですが、西図書館では、利用者の皆さんに、より快適に利用していただくよう、書架や椅子などを順次更新しています。令和3年度は、雑誌用書架、椅子を更新し、令和4年度は、書架、椅子を更新し、来年度も絵本架を更新する予定です。

最後に、図書購入費ですが、例年通り13,000,000円を計上し、多様な資料を購入したいと考えています。

(上野委員長)

中央図書館、西図書館合わせて何かご質問ありますでしょうか。

無いようですので、議事「(6)意見交換」に進めさせていただきます。どなたからでも結構ですので、ご意見やご提案がありましたらお願いします。その前に、今北委員から配られた資料について、ご説明をお願いします。

(今北委員)

前回に、学校図書館司書の話がありましたので、その話をしたいと思います。本校、末広小学校の図書館だよりですが、毎年、宝塚市の学校図書館司書が選んだ「にじいろライブラリー」というリストがあります。小中学校の図書館に「にじいろライブラリー」のコーナーが作られて、小学校であれば低学年、中学年、高学年、中学校と、子どもたちに合った本を選んで学校図書館に置いています。子どもたちは、とても楽しみにその本を読んでいます。本年度も、このような本を紹介いただき、保護者、子どもたちに図書館だよりを配布してアピールをしています。また、先ほど図書館からも報告がありましたが、昨年11月26日に開催されたビブリオバトルは、各小学校、中学校の学校図書館司書から、子どもたちに対して、「こういう会があるよ、出てみない」と声掛けをして、校内でビブリオバトルの練習をしてから市の大会に参加するなど、学校図書館司書の地道な活動が、本が大好きな子どもたちを増やすきっかけになっていることを皆さんにも知っていただくために図書館だよりを配布させていただきました。

(大城委員)

私は、社会教育の関係者という形で、協議会に出席しています。「テーブルライブラリー宝塚」という団体に所属して、視覚障害者の方に向けて、図書館だよりをはじめ官公紙を音訳して届けています。2016年4月に、図書館など公的機関に、障害者への合理的配慮の提供を義務付け、差別の解消を目的とする法律が制定されました。障害者サービスは、コミュニケーションのための手話、点字、外国語、拡大文字、実物の提示、身振り手振りによるサインなどによる合図、触覚による意思伝達などの方法、障害程度の特徴を知り支援方法を習得することを図書館でもしていただいていると思うのですが、中央図書館の

スロープの歩道と車道の間の段差のないところに花壇が置いてあったり、西図書館では、点字ブロックに物が置いてあって、すぐにどけていただきましたが、やはり、そういった観点から、図書館を見ていただきたい。今回のアンケートを見ると、270人程が60代より上の方で半数を占めるなど、高齢者が増えてくるということで、例えば、オストメイト対応や和式トイレの洋式化なども考えていかないといけないと思います。図書館での認知症の方への取組の報告もありましたが、例えば、介助の方が一緒に入れるなど、そういったことも今後考えていく必要があると思います。そういった配慮も図書館で行っていただきたいと思います。私たちは、対面朗読をボランティアで行っているのですが、本来、図書館が主体であるということで、日本図書館協会障害者サービス委員会がガイドラインで示しています。私たちは無償で行っていますので、そういったところも図書館で少し手助けいただければと思います。

(上野委員長)

大変貴重なご意見でした。すぐには対応できないことも多いと思いますが、意識するだけでも全然違うと思います。

(西川係長)

今のご意見に関しまして、中央図書館には、1階に多目的トイレがありまして、オストメイト対応の装置も備えています。西図書館も同様に多目的トイレがございます。また、花壇の件につきましては、歩道上なので市の道路管理課に問い合わせたところ、道路管理課でも分からないとのことでした。障碍の方の支障になるのであれば、検討します。

(小谷委員)

1年間委員を務めさせていただき、ありがとうございました。協議会には十分貢献できなかったかもしれませんが、逆に、図書館について考えている方に囲まれて会に出席したことは、図書、図書館に関する意識が高まったと思います。高校では、学校の中で司書の資格を持つ教員がいれば図書館の仕事に当たるということではなくても、学校図書館は成り立つことになっています。本校も、司書資格を持つ者が学校図書館の作業をしていることではなかったのです。今、丁度人事の時期でもありますので、資格を有する人を確保して、実際の図書館の仕事をしてもらえるように来年度からはなりそうです。実現できたことは、この会に参加して、意識が高まったことが要因ではと考えています。他校で実際にされていた方なので、本校でも魅力的な学校図書館づくりをしてもらえるのではと期待しています。

(豊蔵委員)

山本南分室の貸出状況の分析などをしていただいたのですが、色んな情報が詰まっているのかなと思います。意見書にもあったように広がったら、どれくらい効果があるのか、うまく説得できればと思います。アンケートの結果ですが、図書館を使っていない人、不便さなどの改善を考えていただきたいです。

(藤井委員)

堺市の堺東駅の近くで、堺市役所の隣のビルの中に、面積が53㎡で本の受渡し、受取りと返却を行っている場所があります。20時まで開設していますが、貸出冊数は5万冊程度です。それを考えると、山本南分室は十分見合っています。面積が増えれば、さらに良いことだとは思いますが、山本南分室では、文学が多く借りられています、(どういう作者なのかなど) その中の分析もされたらいいかと思います。それと、豊中市の庄内で、

一つ閉館して、新たに分館を建てたのですが、小中一貫校の庄内さくら学園が隣にあり、4月から開校します。連携をしていくのかなと楽しみにしています。また、先日、中之島の「こども本の森」に行ってきました。貸出はできない、見るだけの施設ですが、こじんまりとしてうまく作っていると思います。図書館とは一線を画したものと思います。今日、末広小学校の取組のお話もありましたが、学校と図書館の連携はもっと前面に出してもいいのかなと思います。

(林委員)

外国籍の子どもに日本語を教えています。絵本は、日本語に対する食いつきがいいように思います。気になったのは、やはり山本南分室の狭さです。もう少し広くなれば、どんな絵本をいかなとか、本の選定もできるので、利用者が使いやすいようなスペースは欲しいなと思いました。

(上野委員長)

皆さん、1年間ありがとうございました。お忙しい中、集まっていただき、貴重なご意見、ご提案をいただきました。今日は、特に、意見書という形で協議会から提出することができました。一つの結果を出せたかなと思います。皆さんのご協力の賜物です。ありがとうございました。では、事務局にお返しします。

(永尾館長)

今年度は、ようやく通常通り3回の協議会を開催することができました。皆さまのご協力に感謝申し上げます。今後とも図書館運営にご協力の程よろしく申し上げます。

(上野委員長)

それでは、本日の図書館協議会はこれで閉会します

-以上-

宝塚市立中央図書館
館長 永尾 理恵子 様

宝塚市立図書館協議会
委員長 上野 弘子

宝塚市立中央図書館山本南分室の拡張に係る意見書について

標記の件につきまして、図書館法第14条第2項の規定に基づき、宝塚市立中央図書館長へ別紙のとおり意見書を提出します。

1 意見書提出に至る経緯

宝塚市立図書館協議会（以下「協議会」という。）は、令和4年12月6日に開催された協議会において、市内の各図書館を視察しました。

宝塚市立中央図書館山本南分室（以下「山本南分室」という。）、同小浜・安倉分室（以下「小浜・安倉分室」という。）を視察し説明を受け、同中山台分室（以下「中山台分室」という。）については資料に基づき説明を受けましたが、視察後の協議の中で、山本南分室について、「あまりにも狭い」、「分室ではなく図書コーナーである」、「狭すぎて、入室できない利用者がある」、「公民館と話をして拡張できないか」など山本南分室の狭隘なスペースの改善を訴える意見が複数の委員から出されました。

令和3年度の山本南分室の利用実績を見ると、貸出冊数が173,014冊と、他の中山台分室（96,521冊）、小浜・安倉分室（43,592冊）と比べ圧倒的に利用が多い状況にあります。

一方で、床面積では、中山台分室が約107㎡、小浜・安倉分室が約150㎡に対し、山本南分室は約38㎡と、極端に狭い状況にあります。

分室について、法律で定める面積基準はありませんが、文部科学省の「図書館の設置及び運営上の望ましい基準（平成24年12月19日文部科学省告示第172号）」では、施設・設備について、「市町村立図書館は、この基準に示す図書館サービスの水準を達成するため、図書館資料の開架・閲覧、保存（中略）に必要な施設・設備を確保するよう努めるものとする。」とあり、この文部科学省告示の趣旨から考えても、山本南分室の拡充が求められます。

2 山本南分室の拡張について（意見）

山本南分室は、宝塚市立東公民館の1階に位置しますが、他の分室と比較すると、利用状況（貸出冊数）は、圧倒的に多い状況にも関わらず、床面積は最も狭く、分室としての機能を十分に果たせていない状況にあります。

当協議会としましては、市民のために早急に東公民館の所管課と協議を行い、山本南分室の拡張、環境整備を図ることを意見いたします。

分室の概要

分室名	小浜・安倉分室	山本南分室	中山台分室
(施設)	宝塚市立教育総合センター	宝塚市立東公民館	宝塚市立中山台コミュニティーセンター
床面積	約150㎡	約38㎡	約107㎡
(対山本南分室比)	3.9倍	1倍	2.8倍
開設年月	令和2年(2020年)10月	平成23年(2011年)7月	平成4年(1992年)5月
開室日数/週	3日	5日	4日
開室曜日	火・木・土	月・火・木・土・日	月・木・土・日
開室時間	10:00～17:00	木土日: 10:00～18:00 月火: 12:30～18:00	土日: 10:30～17:00 月木: 13:45～17:00
蔵書冊数(R4年3月末)	25,132冊	19,555冊	27,698冊
貸出冊数(R3年度)	43,592冊	173,014冊	96,521冊